



修復後の帯廣神社(本殿・拝殿修復工事/2018年)



部材を加工する



木材を選びに施主の家族と森へ

た。16年に「おかげさま」を設立。北海道の社寺建築を引き受け、「身近な人たちのための場所を作る」ことを求めた。

宮大工が作る住宅

おかげさまでは、これまで帯廣神社や音更神社の修復をはじめ、保育園や店舗の設計・施工を行ってきた。今年初めて住宅を手掛けることになった。施工は3年前におかげさま店舗を建てたハン屋の主人で、住居と客用のフリースペースを作りたかったので、た。



牛舎を解体する



木造建築の未来へ
Proposal & Assist

木製と鋼製の融合へ
Steel Ceiling System

佐藤木材工業株式会社

(札幌営業部) tel.011(782)8811
(函館営業部) tel.0138(49)7800



代表取締役 菅原雅重氏

「この木を使って何ができるか」 社寺から住宅まで大切な場をつくる

宮大工のビルダー

おかげさま(帯広市)

おかげさまは、主に社寺建築を手掛ける道内では希少なビルダー。菅原雅重社長は東京や京都で研鑽を積んだ宮大工で、伊勢神宮をはじめ歴史的な社寺の造営・修復に携わってきた。一級建築士でもあり、設計、丸太からの製材、加工を仲間と共に行っている。現在、業務が店舗や住宅にも広がる中、北海道らしい建築を考えているという菅原氏に話を聞いた。

社寺建築を深めて

建築とは掛け離れた学部に在籍していた大学時代、二冊の本との出会いが木工の道を開いたという。題名は「現代棟梁田中文男」。日本の木造建築に多大な影響を与えた田中文男氏の仕事と言葉が続いたものだ。

自らの手で極限のものづくりをする魅力に惹かれた。「大工になりたい」というこの人の下で働きたいという思いが強かった。菅原氏は振り返る。意を決し、田中氏を

事務所の前で待ち伏せして弟子入りを願いだ。大卒は取れない。最初は断られたが、田中氏が主宰する真木建設現(風見建設 東京都)に社務として大工修行が始まった。同時に設計もできる大工を目指すため、夜間の早稲田大学専門学校の二級建築士資格を取得する。

その後、京都の社寺建築を専門的に手掛ける細見工務所を経て、2009年に伊勢神宮第2回式年遷宮で外宮の副棟梁を務めた。「はその底まで一切刃物の跡が残っていない。はたためて、最高の状態を求められる」。宮大工の頂点ともいえる仕事だ。

6年間に及ぶ伊勢での役目を終え、菅原氏は故郷の帯広市に帰ってきた。

牧地内には古く牛舎があり、それを解体し、跡地に建てることになった。牛舎の梁には長さ6.5m、25㎝角のナラ材が大量に使われていた。それを丁寧に処理し、新しい建物に用いる予定だ。

菅原氏は古い材料や曲がった木でも使えることが宮大工の技と、この木を使うなら向かっているのかを考えると、そうすることに建築の幅が広がっていく。

木材を選びに施主の家族と共に森を訪れ、そこで大きな古木で4本の方エダの水が生えているのを見つけた。施主は子供が二人の4人家族で、ちょうど数が合う。耕作物放棄地に移植してきたことは、古いものを礎に新しいものが生まれる倒木更新のようだ。

家族を重ね合わせられるこの4本の木を使うことを、施主も子供たちも選んだ。どうデザインするかは菅原氏の腕の見せ所だった。

また、「北海道らしい建築について考えている」と話し、今回は刈り取った小麦の穂を壁材の一部に使用するという。小麦の一大産地である十勝らしく、施主が営むパン屋にもつながる。

麦藁の壁は、エコロジーの観点から茅葺きや藁葺きを住に取り入れているワンダではよく見られるそうだ。国内で



丸太からの製材、加工を行う

も古民家などで使われている例がある。

道産という広々としたエダ、狭い範囲で地元の方材を厳選したほうが、ありきたりではない良材の良さがでる」と菅原氏は、住宅用の神棚も製作するが、その社殿の屋根を小麦の藁葺きにしたことと語っている。

専門からはみ出すおかげさまには加工場があり、丸太から切り出した原木を製材し、加工から組み立てまで一貫して行うことができる。小規模な体制はこれまで大規模生産に注力してきた日本のもつくりとは違う道歩んでいる。

菅原氏は、「これからは小さなチームが必要とされる」と話し、大規模生産では生産拠点が極めて人材の専門化が進行する。そこで働く人々は、専門以外のことが見えてくることが多い。万が一、小さなチームは、お互いが専門からはみ出して協力し合う。一人ひとりが自ら考え、行動しようとする。

そう考える根拠には、昔の棟梁の姿がある。彼らは建物を作るの自分の手で、一から手掛けたものだ。そんな風に「全部できる棟梁」になりたかったと菅原氏は笑った。

液状化や地震に強く資産価値を下げない。

累計施工実績7,300棟(全国)

HysPEED

最新型石工工法
(SRC) 特許取得 800-0204 (国土交通省H158 第 54-07000)

1 掘削工事 2 砕石充填工事 3 圧入機による圧入

HysPEED工法は、天然の砕石で地盤に砕石パネルを造ることで、軟弱地盤を強い地盤に変え建物をしっかり支えます。

SUSTAINABLE GOALS DEVELOPMENT

私に、環境(9)目標(気候変動)とSDGsを貢献しています

北海道知事許可(般-27)石特18988号 千003-0838 札幌市白石区北郷8条6丁目3-4
有限会社 北海道システム建築 TEL(011)874-6800 FAX(011)874-6801